

福井工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	英語特講
科目基礎情報						
科目番号		0177		科目区分	一般 / 選択	
授業形態		講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科		物質工学科		対象学年	5	
開設期		前期		週時間数	2	
教科書/教材		"Fundamental Science in English I", 『データベース4 5 0 0 完成英単語・熟語』, 『即戦ゼミ1 1 大学入試 ベストポイント英語頻出問題 7 4 0 最新三訂版』				
担当教員		原口 治				
到達目標						
1) 理数系、工学系に関する語彙を習得し、理数系、工学系の簡単な英文を読んで理解できる 2) 身近な話題や日本文化について英語で説明することができる						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目 1		学習した理数系、工学系の語彙や表現のほとんどを英訳、日本語訳がほぼできる。		学習した理数系、工学系の語彙や表現の半分程度、英訳、日本語訳がほぼできる。		学習した理数系、工学系の語彙や表現の英訳、日本語訳がほぼできるようになる必要がある。
評価項目2		学習した範囲の理数系、工学系に関連する語彙を使って、英文の和訳、表出ができる。		学習した範囲の理数系、工学系に関連する語彙を使って、誤りを含みながらも英文の和訳、表出ができる。		学習した範囲の理数系、工学系に関連する語彙を使って、誤りを含みながらも英文の和訳、表出ができるようになる必要がある。
評価項目3		身近な話題や日本文化についてまとまった内容で表現することができる。		身近な話題や日本文化について何とか表現することができる。		身近な話題や日本文化についてまとまった内容で表現することができるようになる必要がある。
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 RC1 JABEE JC1						
教育方法等						
概要		1) 理数系、工学系に関する語彙を習得し、理数系、工学系の簡単な英文を読んで理解できる 2) 身近な話題や日本文化について英語で説明することができる				
授業の進め方・方法		授業は原則 1) と 2) の2部構成とし、定期的に 3) を取り入れながら進める。 1) 理数系、工学系の内容を扱ったテキストを使用し、リーディング、リスニングに取り組みながら関連する語彙の習得を目指す。 2) リーディング、スピーキングに取り組みながら身近な内容を簡単な英語で表出する練習を課す。 3) 定期的にTOEIC試験や工業英語検定等の資格試験を体験する機会をもつ。				
注意点						
授業計画						
		週	授業内容			週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	Introduction, Lesson 1-1			
		2週	Lesson 1-2, Lesson 1前半復習			
		3週	Lesson 1-3, Lesson 1-4			
		4週	Lesson 1復習テスト、Lesson 2-1			
		5週	Lesson 2-2, Lesson 2-3			
		6週	Lesson 2前半復習 Lesson 2-4			
		7週	Lesson 2-5, Lesson 2復習テスト			
		8週	前期中間試験まとめ			
	2ndQ	9週	Lesson 3-1, Lesson 3-2			
		10週	Lesson 3前半復習 Lesson 3-3			
		11週	Lesson 3復習テスト, 工業英検体験			
		12週	Lesson 4-1, Lesson 4-2			
		13週	Lesson 4前半復習, Lesson 4-3			
		14週	Lesson 4復習テスト, 試験対策			
		15週	前期期末試験返却			
		16週				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	
評価割合						

	定期試験	課題	授業中のコミュニケーション活動への参加状況	合計
総合評価割合	50	40	10	100
基礎的能力	50	40	10	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0